

保護者会報

発行者 ● 日本体育大学東京都保護者会
お問合せ先 ● nssu.apg.tokyo@gmail.com
タイトルロゴ ● 越水 春汀



スピードスケート 高木美帆 選手
(2022北京オリンピック1000m 金メダル)



硬式野球部 矢澤宏太 選手
(2022ドラフト1位指名、北海道日本ハムファイターズ)

- 理事長挨拶
- 東京都保護者会会長挨拶
- 健志台キャンパス見学会・講演会
- 第59回体育研究発表実演会 in 佐賀
- 日体大クリニックより

部活・
サークル
紹介

- ・女子柔道部
- ・キンボールクラブ
- ・女子ラクロス部
- ・軟式野球部
- ・体操部第54回演技発表会

研究室
紹介

- ・岡田 隆 先生
- ・杉田正明 先生

- 第99回箱根駅伝



2023年度 日本体育大学 東京都保護者会総会・講演会のご案内

下記のとおり「2023年度 東京都保護者会総会」等の開催を予定しています。

本年度も、総会終了後に講演会を企画しています。皆さまの、ご参加をお待ちしています。

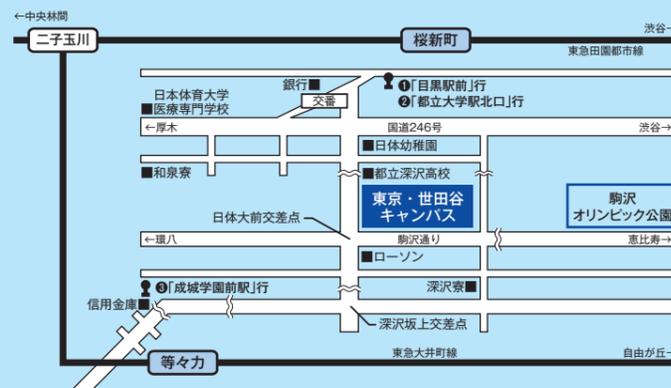
なお、講演会は、東京都同窓会との共催となりますが、東京都保護者会総会としての開催ですので、講演会のみ参加および東京都保護者会の会員以外（同窓会会員を除く）の方の参加はご遠慮ください。

※新型コロナウイルス状況等により、行事内容に変更の場合あり。

記

- ① 日時 2023年 **6月24日** (土) 13:00から (予定)
(受付12:30より、開会5分前には受付をお済ませください)
- ② 場所 日本体育大学 東京・世田谷キャンパス (キャンパス内会場未定)
- ③ 総会 2022年度 活動・決算報告
2023年度 活動計画・予算案・役員選出等
- ④ 講演会 講演者「未定」

- ※1 日時および会場、講演会などの詳細については、2023年5月中旬までに案内はがきをお送りする予定です。
- ※2 【問合せ先】(Eメールアドレス) nssu.apg.tokyo@gmail.com
- ※3 会議室内はエアコンを使用します。必要に応じて上着をご用意ください。
- ※4 駐車場の用意がございません。お車での来場はご遠慮ください。



☆当日は、東京都保護者会役員が大学正門付近などで「日本体育大学東京都保護者会」の「のぼり旗」を持ち、ご案内しています。遠慮なくお声掛けください。

編集後記

2回目の広報担当をさせて頂きました。コロナの状況も改善し、活動的に取材を出来るようになったと感じます。他の担当とも協力する事が出来てとても楽しい時間過ごせました。ありがとうございます。(島田敦史 4年保護者)

2016年、2017年、箱根駅伝6区の新記録を2年連続で更新した、東京都出身のOB秋山清仁選手。2022福岡国際マラソンで、自己ベストを大きく更新して日本人1位、MGC出場権を獲得。東京から日体大、日体大から箱根、箱根から世界へ。夢を追う、背中美しい。(小俣雅史 4年保護者)

広報誌を通して子供たち一人ひとりの輝きをお伝えできれば幸いです。第34号発行にあたり、寄稿して下さった皆様に心よりお礼申し上げます。(鮫島光恵 2年保護者)



私の半人生

学校法人 日本体育大学 理事長
松浪 健四郎

はじめに

大学は、学生一人一人の運命を方向づける場である。目的意識を強く持っておれば、それに沿って努力すれば、高い授業料も無駄ではない。有名になることも、世に出ることも必要ではないが、満足できる幸福な人生を手中にするため、コツコツと前進して欲しい。親や家族は、心配するのでも仕事であるかのように大学生にまで干渉する。自主独立の精神を持ちつつある大学生には、過度の干渉よりも理解、そして応援をお願いしたい。

私の歩んだ軌跡を記述し、参考にしていただきたいが、あまりにも特異過ぎているかの印象を与えるかもしれない。が、時代の先取りであったと述懐する。応援をしてくれた両親と家族に感謝するばかりである

日体大で学ぶ

理不尽のデパート、世田谷の学生寮で生活した。高校まで柔道修行をしたが、入学と同時にレスリングに転向した。世界中で行われているに加え、日本のレベルが高い。金メダリストの先生がいて、多数のオリンピックを輩出する日体大、厳しさは覚悟していた。

言葉で表現できるほどの甘い日々ではなかったが、弱音を吐くことなく強くなる目標に突き進む。3年生でインカレ優勝、全日本3位、ソ連遠征日本代表に選出された。が、メキシコ五輪の代表になれず2位。米国遠征の代表となって渡米、そこで州立東ミシガン大学に全額奨学生としてスカウトされる。

英語に苦しみつつ2年間の留学、1969年の全米選手権で優勝した。帰国して日体大に復学。卒業後、日大大学院の文学研究科教育学専攻に入って修士課程、博士課程を修了する。

スポーツ史

当時「体育学」の大学院は、東大、東教大（現筑波大）と日大にしかなかった。教育学の中で、私たちは「体育学」を学び、私は体育史とスポーツ史を専門とした。学問修業は、レスリングの稽古よりもハード。修士2年、博士課程3年の5年間は長かったが、学問のおもしろさを悟った。レスリングは選手として試合に出ず、あちこちでコーチをした。

日本橋の高島屋に入って、ホテル・ニューオータニでスポーツクラブを設立するために働いた。米国暮らしが役立つけれど、学問の道への愛着は強く係長で退社する。そこへ外務

理事長挨拶

省の外郭団体である国際交流基金からアフガニスタン派遣の要請。体育学とレスリングの指導を国立カブール大学で行う仕事、新婚3ヶ月の妻を伴って着任した。

3年間、発展途上国で暮らす。全国を旅して本を書く。古い身体文化を調査し、イスラム文化を学び論文を書いたり著述に打ち込む。米国留学で英語を身につけ、国際人になったおかげで活躍の舞台が広がった。イスラム文化圏のスポーツ史研究に熱中した。

専修大に入職

帰国すると専修大の専任講師の要請があり、1988年に教授に昇格した。18年間の教員生活であった。が、第2の母国たるアフガニスタンの戦況はひどくなり、教え子たちが旧ソ連と戦う。犠牲者も多くなり、私の支援方法は国会議員になることだと決め、49歳で退職して、衆議院選挙に故郷の大阪から出馬。当選して小泉内閣で外務大臣政務官に就任、「アフガン復興支援国際会議」の緒方貞子議長の補佐役を担当した。文科副大臣を安倍内閣と福田内閣で2期務めた。

「スポーツ振興投票法」（サッカーくじ）や「スポーツ基本法」「文化振興基本法」等の法律を作らせていただいた。また、平成24年から中学校で必須になった武道とダンスは、日体大の卒業生としての面目躍如たる私の仕事であった。11年と半年、代議士として国民に奉仕できたのは幸いであったと述懐する。

民主党が政権を奪取した選挙で、私は下野した。そこへ日体大の理事長と学長から理事長就任の話。考えもしなかったことゆえ、お断りしたが、恩師たちの説得に屈するしかなかった。で、決意をさせていただいた。

母校のために最善を尽くす。世界一の体育大学にする。魅力的なオンリーワンの大学にする等々の決意をもって、2011年6月に就任。4学部と大学院の2研究科を増やし、「身体にまつわる文化と科学の総合大学」へと転じさせた。誇れる大学にする、この決意は私の心に今も宿ったままである。

まとめ

私は、日体大の卒業生として、己の生きる舞台を限定しなかった。様々な体験をしたが、国際的視野を持った影響が大きかった。だから、私は学生たちに「国際人になれ」と叱咤激励している。グローバル社会で生きる第一歩だと考える。この半人生は、省略が多すぎるが、一応のあらすじである。

会長挨拶

東京都保護者会の皆様へ

日本体育大学東京都保護者会 会長
小嶋 晃子

東京都保護者会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本会の活動に対して、深いご理解と多くのご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

今年度、日本体育大学東京都保護者会の会長を務めさせていただいております、小嶋晃子と申します。

2019年の末より猛威を振っている、新型コロナウイルスにより活動を制限されてきましたが、ウィズコロナ・アフターコロナへと生活様式を変え少しずつですが以前のような活動が戻りつつあります。

学生達もすべての授業が対面で行われるようになり、実習（山・海）等も行われるようになってきました。

保護者会でも役員一同で何が出来るかを考え、今年は3年ぶりにキャンパス見学会・講演会を開催することにいたしました。

アーチェリーのオリンピックメダリストであり、本学教授の山本博先生をお迎えしての講演会、キャリア支援の職員の方のお話。健志台キャンパスの見学会（今年は日体フェスティバルも健志台で行われましたが、雰囲気違って楽しめたのではないのでしょうか。）

学生に説明されながら普段我が子が授業をしている姿を想像しながら歩くキャンパスは、感慨深いものです。（案内してくれた硬式野球部の皆さんは説明も丁寧で一生懸命にお話してくれました。頼もしい1年生です。日本体育大学も安泰です!!）

今後も講演会やキャンパス見学会等のイベントを企画し、保護者の皆様に参加して頂けるように鋭意努力してまいります。皆様の声もぜひ保護者会に届けてください。この先生の話も聞いてみたいといったご意見やこんな企画があったら参加してみたいなど保護者会のメールアドレスまでお願いいたします。



また、役員は随時募集しております。一緒に保護者会を盛り上げてみませんか。イベントだけではなく、駅伝・野球といったスポーツの応援、体操部の演技発表会や体育研究発表実演会の見学等楽しいことがいっぱいあります。スポーツの応援などはこれぞ日体生の保護者といった感じで力が入ります。

保護者会活動はボランティアですので一人ひとりが出来る時に出来ることを楽しんでやっています。忙しくてあまり参加できなくても、イベントだけの参加でも大丈夫です。高校までのPTA活動とは一味も二味も違う大学の保護者会活動。大学生になると親に情報がなかなか入ってこないと感じることはありませんか（私だけ?）、保護者会には同学年・同じクラブやサークルの保護者がいるので情報の交換や共有が出来ます。また、他学年との交流を通じてゼミの情報や就職活動の様子が子供たちより先に知ることが出来たりします。うちの子何もしゃべらないけど大丈夫かしら?といった不安が解消されるかもしれません。あなたもぜひ、体験してみませんか?

毎月第3土曜日（原則）世田谷キャンパスで役員会を行っています。お気軽に遊びにいらしてください。

最後になりましたが、保護者会の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

健志台キャンパス見学会

伊澤 僚子 (1年保護者)

11月26日〔土〕、健志台キャンパス見学会が開催されました。コロナ禍により3年ぶりの開催です。多くの保護者会役員も初の試みのようなもので、かろうじて4年生の保護者が1年生の時に行列したくらいです。当日は朝から雨模様で、お天気が心配されましたが、講演会の途中から太陽が顔をだしてくれて、キャンパス見学会の時間帯には雨に合わずに済みました。

10名の硬式野球部の1年生の案内により、10グループに分かれてキャンパス見学会が始まりました。まずは陸上競技場です。一周400メートルあるという事で、とても広く、当日は記録会が行われており、各地から高校生など選手達が、トラック内を走っていました。続いて、キャンパス内でも最も古いとされている校舎ですが、ここは外から説明を聞くだけでしたが、野球部の学生さんはとても説明が上手く、保護者の方々からは「へーそうなんですね」と皆さんそれぞれにびっくりされている様子でした。そして、プールに設置された飛び込み台にも皆さん驚いており、学内にそんな高い飛び込み台があるのは日本体育大学ならではのですね。次に目に飛び込んで来たのは、広いラグビー場です。部員達の体格の良さや、ラグビーだけのグラウンドがあるのもいいですね。通路を挟み、ラグビー場の向かい側には、先程講演会をして頂いた山本博先生も練習していると思われるアーチェリー場があり、的までの距離は90メートルという事で、その長さにも驚きでした。時間があれば練習しているとおっしゃっていた山本博先生ですから、学生時代からずっとここで練習していたのでしょうか。奥にはサッカー場もあり、ここでも部員達は汗を流しておりました。その左側にはゴルフ練習場もあり、日体大卒業の有名なプロゴルファーの方々もここで練習していたのでしょうか。バンカーの練習も出来る砂地の場所もあり、ゴルフ好きな保護者の方はきっと練習したくなる施設です。練習場の最後は野球場です。案内をしてくれている学生さんは野球部なので特に説明に熱が入ります。今年ドラフト1位指名の矢澤宏太くんもここで練習していると思うとワクワクしてきますね。野球場に上がった途端、保護者の皆さんから「うわあ〜凄い」という声がたくさんあがっていました。ここからは校舎の見学になり、食堂のある所やその横にはコンビニエンスストア、下には書店と売店があり、食堂はお昼ごろになると長蛇の列になると説明もありました。学生食堂のオススメは「唐揚げ」という学生さんからのアドバイスで、見学会の締めくりに



は学食の試食会もあるので、皆さんの気持ちは唐揚げに傾いたのではないのでしょうか。階段を降りると、相撲場、レスリング場がありました。体育館もいくつもあるため、ここで何の練習をしているという、学生さんの説明もさすがに覚えきれないくらいです。靴を脱ぎ、次は体操競技館です。たくさんの学生さんが練習をしているため、大きな声で話せませんが、ちょうど跳馬を飛ぶ瞬間を拝見できました。歓声をあげたい、拍手したい気持ちを皆さんぐっと我慢していたようです。見学のグループによっては、体幹のお手本をしている白井健三先生が見られたようです。体操競技館の次は米本記念体育館です。正面の入り口には大きな獅子。狛犬のように「阿吽」の対になっています。百年記念館に戻って来てエッサッサの銅像前でエッサッサの説明もしてくれました。通称「エサパン」と呼ばれる白いパンツを履いて行うエッサッサは、実際に見るととても鳥肌が立つくらい感動しますね。いよいよキャンパス見学会の締めくくりは、学生食堂での試食です。ショーウィンドウに並ぶメニューを見て何食べようかと悩みますね。オススメは唐揚げだそうです。どれもこれもボリュームたっぷりです。広い学生食堂は、コロナ禍のため1人ひとりの間に仕切り板があり感染予防対策は徹底していました。そんな中で見学会を終えた保護者の方々には和気あいあいといった感じで学食を召し上がっておられました。学生食堂の上の階には、お洒落なカフェもありました。次はそちらにもぜひ行ってみたいですね。

今回のキャンパス見学会では、「娘と共通の話題が出来て良かった」や「野球部の学生さんの案内が素晴らしい」など、感想を頂きました。来年度は世田谷キャンパスの見学会を予定しております。健志台キャンパスよりは規模は小さくなりますが、綺麗な校舎ですし、コロナ禍が落ち着けば長い時間見学出来るかもしれませんね。多くの皆様の参加をお待ちしています。



森 勝子 (4年保護者)

11月26日(土)、健志台キャンパスにおいて、山本博先生の講演会が行われました。アーチェリーのメダリストであり、当大学教授の山本先生のお話を聞くことができる貴重な機会に多くの保護者が集まりました。保護者会により、あらかじめ4つの質問を用意し、それに答えていただくという形でお願しました。

【質問①】 二度のオリンピックでメダルを獲得された先生、オリンピックを経験して思うこと。オリンピックは参加することに価値があるといいますが、メダルを獲得され、変化はありましたか？

【質問②】 ゾーンに入るということについて。ゾーンに入るような訓練などであったり、努力でそうなることができるのでしょうか？

【質問③】 先生は私たち保護者と同世代だと思いますが今も現役で次のオリンピックも目指しているとのこと。更年期と競技力について、ご自身の経験や研究の一端をお聞かせください。

【質問④】 最近の学生について。コロナ禍のリモート授業を経て今年から対面授業になりましたがコロナ前と今、学生に変化はありましたか。

以上、4つの質問についてお話をいただきました。

①についてのお話で私が印象に残ったことは、『選手としてはオリンピックに参加することに意義があるということは違う。メダルを取るために4年間最大限の努力をしてきた。取れなかった時は反省材料がいくらい空虚しかない』オリンピック選手としての真の声を聞いた気がしました。②について、『所謂ゾーンに入るとは、コンディション、精神、技術、全ていい時に更に六感というプラスαの領域に入った時のことである。子供でも興味あることに集中して、他の声、音が聞こえないことがあるが、それもゾーンに入っている、もともとのメンタルの強い弱いはない。適度に失敗と成功をすることが大切』



全くの凡人の私にはわからない深い世界だなあと感じました。③について、今回の講演で個人的に一番興味があったのですが、先生の見目の澀刺とした若さの源は?? 適度な運動、食事、喫煙、コミュニケーション力など、事例を交えながら説明してくださいました。弘前大学大学院医学研究科博士でもある先生のお話はもっとお聞きしたいと思う内容でした。そして、強く印象に残ったことは現役活動を続ける、やめないということ! 先生は大会に出るため毎日練習をしているそうです。『10代の子達と競って負ければ悔しいと思う。心理的限界が肉体的限界に繋がる』還暦間近の私には大変参考になりました。

④について、『子供たちは大人以上にマスク生活で苦勞したと思う。現在、マスクなしでOKの場面でも女子は取らないことも多い。海外のマスクなしは当たり前、日本人の国民性なのか……今後、顔の表情を読み取る能力など、子供の成長にどう関係するのか心配している。20~30年前には、携帯電話、スマホが普及した。顔を見ないコミュニケーションが情緒にどう関係するのか結果は出ていない。スポーツや音楽はスマホもマスクもなしでできること、是非トライして欲しい!』先生のおっしゃる通り、スポーツの素晴らしさを別の角度から感じました。

以上、大学の講義のような濃い内容でメモを取りながら聞いていた保護者も多くおりました。まだまだ聞き足りないと思う程でした。山本先生、本当にありがとうございました。



第59回体育研究発表実演会（佐賀県大会）

島田 敦史 (4年保護者)

2021年度は「横浜アリーナ」と言う事で、東京都保護者会のメンバーも多く参加されていました。しかし、今年は一人ぼっちで佐賀大会の観覧となりました。

今年のテーマは「勇往邁進」恐れることなく、自分の目的・目標に向かって、ひたすら前進すること。日体大生にふさわしいテーマです。

今回の、会場「SAGAサンライズパーク総合体育館」は収容人数2,000人強、バレーボール三面とそれほど大きくない体育館でしたが、観覧するには最高です。昨年の「横浜アリーナ」にはない演技者や競技者との一体感を感じられました。表情までもが間近で見ることが出来たことはとてもうれしい気持ちです。特に、チアリーダーや新体操の演技者の笑顔は見ていた方々には最高の思い出であったでしょう。

今回、少林寺拳法・剣道・空手の武道もプログラムに組みこまれていました。ここでは佐賀県出身の学生が何人かおり、演技前に出身校と合わせて紹介されていました。郷土の仲間意識が高いのか各自紹介されるごとに場内はざわめき、大きな拍手も湧いていました。都会の人間の感覚では分からない気持ちが感じられる時間でした。紹介された学生も故郷を感じられる瞬間ではなかったのではないのでしょうか。

体操競技では助教の白井健三先生より鉄棒の演技を見る事が出来ました。流石に金メダリスト、E難度、F難度の演技をいとも簡単にこなしているように感じられたのは私だけでしょうか。観覧していた皆さまも一つひとつの演技に歓声を上げていました。トランポリンの演技では、全日本3位のペア演技を見る事が出来て最高でした。

集団行動やエッサッサでは、観客の方々は“待ってました”とばかり身を乗り出してみているように思います。私の周りの席の子供達も知っているのか、楽しんで大騒ぎしていたのを見て私も感動を覚えました。今回は佐賀県そして周辺県から観覧に来たようです。普段、見る事の出来ない最高級の演技競技を見られたことは、彼らにとって大変有意義な時間だったように思います。帰りの道では“あの演技が良かった”とか、“この演技が最高だった”とか話す光景を見て、地方で実演会を実施する意義を感じさせられました。

今年度で私の娘も卒業となります。この4年間で日体大のファンにさせて頂きました。保護者会の役員という良い機会を得たことにとても感謝しています。また、どこかで日体大生、卒業生の演技・競技を見る事を楽しみにしています。



【当日のプログラム】

- チアリーダー
- フットサル
- 新体操
- 武道 (少林寺拳法、剣道、空手)
- 体操競技
- 体操
- 集団行動
- トランポリン
- エッサッサ



保護者会の皆様へ

日本体育大学クリニック院長 平沼 憲治 先生
(保健医療学部 整復医療学科 教授)



日本体育大学クリニックは、2018年12月に、アスリートのための「臨床」「教育」「研究」の拠点として開設されました。アスリートの育成には、「競技力向上のためのトレーニング」と「メディカルサポート」の両輪が必須です。本学学生の怪我の多くは、部活動中に起こっており、日本体育大学クリニック診療受付時間も15:00～18:00と夕方の時間帯としております。安心して部活動ができる環境は、大切であると考えております。

当院の整形外科では、PRP(多血小板血漿)による再生医療を行っています。PRPは、アスリートの靭帯損傷、筋損傷等が適応となっており、以前の治療に比べ格段に早期競技復帰を可能にしております。また一般患者さんにおいては、変形性膝関節症に施行し、症状を改善しております。PRPは自費診療となりますが、他の医療機関に比べ安価で行っており本学学生が治療を受けることができる値段に設定しています。

この1、2年はコロナ禍で、対面での授業、部活動は制限され、体育大学としては大変辛い状況が続きました。当クリニックでは発熱外来を開設し、コロナ対応も行っております。コロナ抗

原検査を購入し、健康管理センターと協力し、実習の前後で抗原検査を行いコロナ感染症対策に努めて参りました。また大規模コロナワクチン接種も実施致しました。

当クリニックは、スポーツ医学の発展にも寄与したいと考えております。研究体制の充実が必要ですが、研究施設面では、2019年4月に最新のMRI(日立オーバル、1.5T)が大学院で購入されました。生理学、バイオメカニクス(動作解析)等の研究室と当クリニックが協力して色々な課題と取り組んでいきます。

最後に、当クリニックは、通常の保険診療を行っており、保護者の皆様にもご利用頂きたいと願っております。今後も当クリニックに関し、ご理解、ご支援賜りたく宜しく御願い申し上げます。

女子柔道部

鮫島 光恵 (2年保護者)

女子柔道部18名は、小島新太監督ご指導のもと世田谷キャンパスにて、朝・夕の稽古、ウエイトトレーニングやランニングに、毎日汗を流しています。

東京オリンピック金メダリスト52kg阿部 詩さん(4年)を筆頭に、学生体重別3位の浦 明澄さん(4年)、世界ジュニアで優勝した新井万央さん(1年)。全日本ジュニア準優勝の田中輝乃さん(1年)。全日本強化選手3名が所属する、世界での活躍を目指すトップアスリート集団です。

すべての部員一人ひとりが、日々の課題に真摯に取り組み努力を積み重ねた結果、目標としていた全日本学生柔道、体重別団体でベスト8の成績を取ることができました。

毎日、厳しい稽古に励む彼女たちですが、試合などで接する素顔は、とても礼儀正しく、よく笑い、よくしゃべる、愛くるしい子たちです。彼女たちの努力が実を結び、それぞれの夢が叶うことを心から願っています。

東京都保護者会の皆様にも、挑戦を続ける女子柔道部への応援を何卒宜しくお願い致します。



キンボールクラブの紹介

福本 記子 (2年保護者)

私の息子が日本体育大学に入学してから2年になろうとしております。息子が本大学に新しい種目のキンボールクラブを創部するにあたり、大学からの理解と部員を集めることに尽力した様子を目の当たりにしました。今回はこの場をお借りして、キンボールクラブ創部に対する想いと、キンボール競技についてご紹介させて頂きたいと思っております。

キンボールは1チーム4人、1試合を3チームで戦う三つ巴対決です。オムニキンという言葉には「オムニ (OMNI) =すべて」の「キネシシス (kinesthesia) =運動感性」を掛け合わせ、「すべての人が楽しめるスポーツ」という意味が込められています。キンボールは、①コンペティションゲーム (競技として行うゲーム)、



②リードアップゲーム (段階的にボールに親しむゲーム) に分けられて試合を行います。そのため、競技が困難な小さい子どもや高齢者、障害をお持ちの方など幅広く楽しむことができます。そこがキンボールの魅力です。先日、息子が小学校のイベント



にボランティアで行った時には、低学年の背丈に近い大きなピンク色のボールに、目を輝かせて駆け寄って来たそうです。

昨年から、少しずつですが、日本体育大学のチームとして何度か大会に出場して、着実に成績も残しております。生涯スポーツ、交流を図る上でのツールとしてするスポーツ、いろいろな形があると思います。大学のクラブとして仲間と楽しみながら、もっと世の中に広めていく今後の活躍を見守り、応援したいと思います。

女子ラクロス部

鈴木 智美 (4年保護者)

2021年度は10大会ぶりに学生日本一となりました。2022年度こそはクラブ日本一のチームに勝利して、真の【日本一】となることを目標としていました。チーム理念は【體育富強之基】(インフルエンサーとなり、全国に活力を与える)です。チームスローガンは【超越】(これまでの歴史を大切にしながら超えていく。最大の敵は私たち自身!)で、この1年間、109名で闘ってきました。結果は、10月15日にFINAL4 (関東学生ベスト4) で立教大学に5-6で敗れ、引退となりました。8月15日にリーグ戦の初戦で慶應義塾大学に4-8で敗れ、もう1敗もできないという状況の中で残りの5戦を全勝しました。ディフェンディングチャンピオンとしてのプレッシャーの中、前だけを見て努力し



続けてきました。その姿は、親としてとても誇らしいものでした。

皆さんはラクロスという競技をご存知でしょうか。あの華やかなユニフォームからは想像できないエキサイティングなフィールドスポーツです。大学デビューの全日本メンバーもいます。私は、観戦するごとにラクロスに魅了されています。

コロナ禍のおかげで、これまで以上にTwitterやInstagram、YouTubeで情報発信することを学び、zoomで頻りにミーティングし、練習や試合をできることに感謝の気持ちを持ってたようです。また、保護者グループLINEを作成し、行事や試合の情報を共有してくれます。無観客試合はもちろんのこと、有観客試合もYouTubeやインスタライブで実況配信します。回を重ね

るごとに実況は上手になり、選手紹介やハーフタイムもフリップを使って楽しませてくれる等、工夫を凝らしています。

ラクロス部に関わってくださっている皆さまのおかげで、娘はずいぶん成長させていただきました。私も目一杯楽しませていただきました。心より御礼申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を心より願っております。

軟式野球部

林 環 (1年保護者)

日体大軟式野球部は福井 元部長のもと、男女軟式野球部部員が世田谷キャンパス、砧公園野球場等を練習場として活動しています。

福井部長へ大切に思うこと (部員への思い) についてお聞きしました。軟式野球部は、学生が主体で運営しています。活動する際には、他大学の学生をはじめ、様々な企業、地方公共団体など、社会とのやり取りが生じます。また、壁にぶつかった時は、学生同士で答えの無い議論をしながら、良い方向に進んで行くというのが理想です。

このような活動を4年間続け、野球の技術ばかりでなく、社会の一員として生きていく術を身につけて欲しいと思っています。

次に、男女軟式野球部の両監督に軟式野球部の魅力についてお聞きしました。○男子軟式野球部は学生のみで部活動の運営をしていることが一番の魅力になります。誰か他人に仕事を任せるのではなく、一人ひとり主体性を持ち、自らで考えながら日々の活動できる点も大きな魅力です。○女子軟式野球部の魅力は、初心者でも活躍出来ることです。現在部員18名のうち、高校で野球をしていた選手はたったの5名です。ソフトボールをしていた選手が4名、小学校、中学校で野球をしていた選手が4名、野球をした事が無い選手が5名となって



います。それでも、夏の大会では多くの選手が活躍し、素晴らしい成績を残しています。誰でも一生懸命頑張れば活躍出来るのが、軟式野球部の魅力だと私は思います。

幼い頃から野球が好きで現在も続けている部員、大学に入って野球の楽しさに気づいた部員、日々、選手を支えてくれている部員、様々な立場の部員が軟式野球部を通じて結束し、個人々が限界に挑戦し、私たちに大きな感動を与えてくれることを期待しながら応援していきます。

最後に部員募集のお願いです。

- 男子軟式野球部では野球の技量に関係なく、熱意のある方を募集しています。一緒に大学軟式野球界を盛り上げていきたい方、心より入部をお待ちしております。
- 女子軟式野球部では現在、新型コロナウイルスの影響もあり、部員が大幅に減少しています。経験者も初心者もどちらも活躍出来るのがこの部活の魅力です。日本一を目指して、私たちと一緒に戦いましょう。

体操部 第54回演技発表会

藤井 初美 (1年保護者)

11月12日(土)、国立代々木競技場第二体育館にて、体操部の第54回演技発表会が行われました。いまだ新型コロナウイルス感染の収束は見えない状況のなか、3年ぶりに一般公開ができた演技者は演技中のみマスクを外して演技を披露してくれました。また、今回は日本体操学会の後援を受け関係する体操グループとのコラボレーション発表を実施する運びとなり、例年とは一味違うものになっていました。

司会は体操部OBの佐藤弘道さん。弘道さんらしい進行でオープニングが始まりました。部員全員の弾けるような笑顔を見て、これから始まる演技にワクワクしました。主なプログラムを紹介します。「炎舞」をテーマにした男子体操では、3曲ごとに炎の燃え方の違いをイメージした力のある作品でした。女子体操は、「世界旅行」をイメージして美しくしなやかな動きで、それぞれの国を表現されていて素敵でした。「人生100年時代」では、小学生の元気一杯な動き。夫婦の仲の良い動き。そして、高齢者のゆっくりとした動き。難しいテーマを演じきってとても楽しい作品でした。中盤にさしかかり健康体操教室の先生を中心に、来場者と一緒に「四つ切り体操」と「丸の体操」を行いました。体をへそから4分割に引きちぎり、丸の体操で関節全てを大きく回し全方位への可動域を増大させることでコリ固まる体を柔軟に



することの大切さを教えてもらいました。「忍びの衆」では、部員全員が忍者になり器具を工夫した練習により修行おこなうという演出により、積み重ねてきたものを一気に魅せてくれました。ラストの「Gym-mix」では、1人ひとりが主役となり技だけでなく、心技体を感じる素晴らしいものでした。

入部して1年たっていない息子が最後の演技中に感極まり泣いていました。指導していただいた先生、先輩たちへの感謝の気持ちがあふれ、この場にたてた幸福感を感じたのでしょうか。とても感極まった素敵な時間でした。

岡田 隆 教授のゼミについて (研究テーマ「体幹」等) 取材担当：峰尾 浩文 (3年保護者)

ゼミは大学3・4年時に行われます。1・2年の授業で得た知識をベースに自分の好きな研究を進め、卒業論文を書きます。卒業論文は『単位のため・卒業するため』に義務として書くのではなく、興味があって頑張れば国際学会で発表をすることもできるし、大学院に行って深く研究して研究者になる道も開かれている事をまず教え、『世界に対して発信できるすごい事をやっている』という意識をつけていきます。

アスリートは、パフォーマンスアップの体幹トレーニングもするし、腰痛対策の体幹コンディショニングもします。したがって『体幹』という研究テーマは学生が身近に感じるものです。他に『減量(除脂肪、ダイエット)』や『野球の投動作』などそれぞれに興味あるテーマを科学的に検証し、卒業論文でまとめていく形でゼミを進めていきます。

「国際学会で発表できる」と話をして意識づけすると、大学3年生でも大学院で通用する高いレベルの研究発表をしてくれる学生もいるほどです。実際に「大学院に進学したい」と言ってくるゼミ生もいます。このように最初の意識づけの重要性を肌で感じ、学生達の無限の可能性に嬉しくなります。

国際学会とはスポーツで言えば国際大会のようなものです。

スポーツで国際大会まで行けなかったとしても、研究では国際学会を目指し、世の中の役に立つ研究者にもなれるという大きな志を持ってもらえるよう、心に火を付けるゼミを展開していきたいです。

一方で、卒業論文というのはまずは自分のためにやるべきであると考えています。自分が興味あるテーマでないと研究などできません。また「研究テーマ」とは研究者のアイデンティティですから、自分は何者であるかを示すためにも自分が本当に興味のある事に取り組んでほしいです。世界を目指すというのはその先に結果としてあるものであり、力まずに本当に好きな事を研究テーマにしてほしいと思って学生達に接しています。



杉田 正明先生の研究ゼミナール紹介 取材担当：中分 佳子 (2年保護者)

大学生活の中で最後を締めくくる卒論。この卒論を作成する為に、ゼミは3年生でスポーツ研究C、4年生でスポーツ研究Dという正式な授業科目として、全員修復しなければいけません。ゼミについて、日本オリンピック委員会の委員もされている体育学部教授の杉田正明先生(学術博士)に取材をさせて頂きました。杉田先生のゼミでは、あるテーマに対してスポーツ科学的な測定、実験などを通して、その知見をどの様にスポーツの現場での指導に役立たせるかを研究しているそうです。

取材に伺った日は、開発されてまだ公に使われていない、運動中に増える汗中乳酸を常時測定できる装置(マイクロチップが挿入された機械を腕に取り付け、Bluetoothで携帯にデータ送信出来る)を用いた測定でした。授業は、開発者の方から



入念な説明、試運転、本番測定、最後にディスカッションで、2時間行われました。

ゼミには大学生と大学院生が参加しており、体育学科4年の横川汐音さん(近代五種部)に杉田先生のゼミを選んだ理由をお聞きしました。「杉田先生の、トップクラスの研究を自分の競技に活用できればと思って参加しました。応募者の多いゼミだったので、参加するために目的をしっかり持って卒論を視野に入れてアプローチしました。」との事。杉田先生からは「ご子息を日体大に進学させてくれて心より感謝致します。せっかく日本一の体育・スポーツ系大学に在籍しているのですから、どんどん積極的に色々なところへ顔を出して色々なことを学び、知り、知的好奇心を高め、日体大をフル活用して欲しいと思います」とメッセージを頂きました。杉田先生の詳しい研究内容は、大学のHP教員情報でご覧になれます。

先生の数だけゼミがあり、平均13人程の少人数で年間30回行われる授業のスケジュールは、先生と学生の都合で集中的に行われたり、合宿があったりもするそうです。ゼミは2年生の秋以降、体育学部は2022年度12/5～3/15が選択期間とのこと。早い時期から意識し行動する事が、充実した大学生活の源だと思いました。授業内容や気さくな先生との雑談はとても勉強になり、貴重な体験となりました。本当に有難うございました。

第99回東京箱根間往復大学駅伝競走 小俣 雅史 (4年保護者)

学生駅伝の最高峰「箱根駅伝」はシード10校と予選会上位10校、オープン参加となる 関東学生連合の合計21チームで競われる、新年の大イベントです。日体大はこの駅伝に、1949年の第25回より連続出場を続けています。

【第99回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会】 2022年10月15日(土)

コースは、陸上自衛隊立川駐屯地～立川市街～国営昭和記念公園、21.0975km。今回、予選会には43校が参加、各校上位10名の合計タイムにより、箱根出場が決まります。

予選会を突破し、日体大の連続出場を守るため、夏合宿にはOBの谷口浩美氏(1991世界陸上選手権マラソン金メダル)が駆けつけ直接、選手へ指導をしたと聞いています。

当日、エースの藤本珠輝(4年)選手は故障により欠場となりました。レースの中盤までは10位前後に見えていたので心配しましたが、堅実な集団走を続け結果は5位、連続出場75回を決めました。

【第99回東京箱根間往復大学駅伝競走】 2023年1月2日(月)～3日(火)

応援団部のチャーターバスに、同乗させていただき選手や応援団部の皆さんを、間近に見ることができました。さすがに、



箱根駅伝「選手・サポート・応援・運営・報道・観客」そのスケールと熱量に驚きと感動の二日間でした。

往路、復路ともにスタートおよびフィニッシュ付近の指定場所で、選手が通過する約1時間前から応援は続けられました。両日とも、天気は快晴でしたがとても寒い日でした。凛々しい応援団部、明るく力強い踊りと演奏を続けるチアリーダー部とブラスバンド部、日体大の応援はどここの大学よりも明るく元気で立派でした。

結果は往路18位、復路11位、総合成績は前回と同じ17位となりました。総合10位までが次回のシード校となるため、第94回(2018)以来のシード権獲得はかないませんでした。しかし、箱根を走った選手、予選会を走った選手、その他多くのスタッフの支えによって日体大の「襷」は途切れることなく、ゴールまで運ばれました。

第99回 東京箱根間往復大学駅伝競走 (日本体育大学)					
区間	選手名	学年	区間順位	総合順位	往路復路
第1区	山崎 丞	1	9	9	往路 18位
第2区	藤本 珠輝	4	12	12	
第3区	漆畑 徳輝	3	10	11	
第4区	分須 尊紀	2	20	16	
第5区	吉富 純也	3	19	18	
第6区	内山 峻一	3	11	18	復路 11位
第7区	名村 樹哉	4	11	17	
第8区	廣澤 優斗	4	12	16	
第9区	盛本 聖也	4	14	16	
第10区	大森 椋太	3	14	17	

